

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり(1階)		
所在地	岐阜県多治見市市之倉町13丁目83番地353		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191100052&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接のひまわり幼稚園の園児との触れ合いを通して優しい気持ち、元気をもらい毎日の生活にはりを持っていただく。新鮮で良質な食材を用い、季節感のある家庭的な献立で満足していただいている。季節毎の行事を行い、紅葉狩りや花見、クリスマス会、節分、運動会、夏祭り等、外出の機会を多く設け季節感を満喫していただけるように職員全員が努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、法人の総合福祉施設に併設し、同法人経営の幼稚園とも隣接している。幼稚園児とは日常的に交流し、「幼老一体」の特徴ある介護運営を展開している。利用者は、園児と触れ合うことで、優しい気持ちと、元気をもらいながら生き生きと笑顔で暮らしている。さらに、地域の人々との交流を大切に、町内行事の清掃活動や防災訓練にも積極的に参加し、認知症を理解するための講座も開いている。また、毎月、第3日曜日は、法人施設内に喫茶店を開き、利用者・家族を初め、近隣の人々や長寿会の人達が大勢訪れ、地域とのつながりを大切に事業運営を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に掲げてあり常に職員が確認できるようにしてあります。総合福祉ひまわりの理念を基にグループホームの理念作成を始めているところです。	法人による総合福祉の事業理念を掲げているが、ホーム独自の理念は、作成準備中である。月ごとに優しい介護の目標を定めて実践している。	職員それぞれから、アイデアを募りながら、分かりやすい地域密着型の理念を考案中であり、その実現に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事には積極的に参加し、地域の人との交流を大切にしています。清掃活動、防災訓練等、又、毎月、第三日曜日には、日曜喫茶を開催、利用者様、御家族様、地域の方達と楽しく食事をして自由に行き来できる環境を築きつつあります。	町内の一員として、回覧板が回るようになっている。地域の清掃活動や防災訓練に参加している。毎月、第3日曜日には、隣接の通所介護施設を開放して喫茶を開き、家族・長寿会・住民や子ども達と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は、公民館において地域交流の一環として県病院のドクターを講師に「認知症の理解」と題し講演会を開催しました。運営推進会議においても、地域の認知症の方の対応を質問されることも増えてきており、これからの地域貢献に向けて検討中です		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご家族、地域の方が積極的に意見を出して下さるので参考にサービス向上に活かしています。そこからの提案で現在、日曜喫茶を開催地域の方との交流が出来て認知症理解の発信ができています。	会議には、行政・地域包括支援センター・町内会長・長寿会長・民生委員・家族が参加し、隔月ごとに行われている。地域福祉の課題、認知症の理解、地域交流の進め方等が話し合われ、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題解決が困難の時、その他、常に市の担当者と連携を取っており、介護保険に沿った対応が出来ているかどうか等、利用者様の具体的な対応も迷った時は、随時相談し協力関係を築いている。	利用者・家族の精神症状に問題のある例を相談している。成年後見制度や加算申請など介護保険制度に関する相談をしたり、事業運営を随時報告し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は権利擁護推進員養成研修を受講している。職員はマニュアルにて研修、施設内にて外部講師による新人を含む職員研修にて取り組んでいる。	管理者・職員は、身体拘束の禁止を研修で学び、周知している。転倒骨折のおそれがある利用者は、家族と相談し、就寝時のみ、ベッド柵を使用している。玄関は、日中開放し、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は権利擁護推進員養成研修を受講。職員はマニュアルにて研修、施設内にて外部講師による新人を含む職員研修にて取り組んでいる。全員で注意深く観察、表皮剥離等見つけた時は、徹底的に原因を追及する。事故報告書を作成し皆で対応を共有している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、リーダーは研修に参加し必要性のある利用者に対しては活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解していただいている。又改定の際は書類でも表して送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	皆様の声、苦情箱を玄関に設置し、利用者様、御家族様のご意見は運営推進会議の検討事項で表して皆様に公表しています。ご家族が面会に来られた際は管理者は、必ずお会いして最近の様子を話す中でご家族の意見を聞くようにしている。そして職員が共有して運営に反映している。	家族との面会や電話で、直接意見を聞いている。家族からは、日頃の具体的なケア内容の報告や糖尿病に配慮した調理の要望、職員の接遇に対する意見等が出されている。それらは、職員会議で検討し、家族の理解を得ながら運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見は充分聞く様に努力していますその内容によっては施設会議で討議して施設全体に反映できるようにしています。	管理者は、毎月の定例会議で職員から意見を聞いている。早朝は人手が足りないため、早朝勤務の出勤時間を1時間早くしてはとか、トイレに流せるおしりふきに変えたい等の意見がある。意見や要望は、法人会議で検討し、サービス改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めている。ジョブ評価を導入し進めている。まだ給料には反映してはいないがそういう体制作りを進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問指導制度を導入し、職員を4種類に分けたコースで全員が岐阜経済大学、あじさい学園のOJTとOFF-JTを年間通して実施している。管理者は外部研修(岐阜県福祉総合相談センター・福祉系大学他)での研修を積極的に受講している。資格試験受験を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他施設の見学訪問を実施しており交流を深め施設の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、本人、家族より困っていること、不安なこと、要望を細かく聞く様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の懇談で家族の思いを聞き、以後面会時、電話等で常に連絡し合い良い関係をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の懇談で支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支えあえる関係を築くには職員のしっかりした介護の考え方が重要なので研修を充実している。現場では数人の職員が暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に、ご家族に連携を取り、ご家族の立場を理解し意見、思いを聞きながらいい関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで買物に良く行かれていたお店へ買物に行かれることが時々はある。こちらから出向くことは少ないが、馴染みの方、友人等が訪ねて来られる利用者様がある。これからも馴染みの場所や人との関係が途切れない様に支援して行きたい。	知人や友人などの訪問があり、面会者には、ゆっくり寛げる場所を提供し、接待している。馴染みの店で買い物をしたり、懐かしい場所をドライブで回るなど、継続的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節の行事、レクリエーション、外出の機会を通して利用者同士が関わり合えるように支援し、お互いがわかり合えるように可能な限り情報も共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方は少ない為これからです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望、意向が聞けない方はご家族、又、職員の毎日の関わりの中から思いを把握して本人本位のケアが出来るように努めている。	日頃の会話の中で、思いや意向を聞いて把握している。思いを聞けない人には、そばに寄り添いながら、表情や動きから汲み取っている。家族からもそれとなく、情報を得ながら、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、本人から聞けない時、家族との会話や行動の中から生活歴等についての情報をみつけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から本人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き反映させるようにしている職員会議で意見交換して介護計画を作成している	職員会議で、職員の意見やアイデアを基に、介護計画を作成している。本人・家族とは、日頃の関わりの中で希望を聞いて計画に反映させている。本人の状態が変わったり、家族の要望に変化があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の記録や気づきを介護記録や申し送りノートに記載して、情報共有を徹底し見直しや意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院、買物等必要に応じ支援している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供や音楽療法、マジック、ダンス等、ボランティアの協力で楽しい時間を提供し、グループホーム以外の人との関わりで、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院への受診をしている基本的に家族対応の受診となっているが、都合の悪い時は職員が付き添い受診している。体調変化時は看護師が付き添い施設での様子を伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	個々に、入居前からのかかりつけ医を継続している。病院への受診は家族が行うが、都合が悪い場合は、職員が付き添い受診している。様態の変化に応じて、看護師が付き添っている。	心理症状に課題のある利用者には、専門医の診断が必要であるが、家族の理解が得られない場合もあるため、適切な受診につながるよう、家族との信頼関係を築かれない。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と常に連携し対応している。急変時24時間体制で対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は様子を見に行き状態を把握し、家族にも連携し退院後に安心して暮らせるように病院との情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、については、入居時に説明してありますが、終末期のケアについてはご家族の思いに添える24時間対応の医療連携を整えたいと準備中です。	重度化・終末期では、常時医療行為が必要になれば、他の施設か医療機関に移ってもらう方針である。家族とは、かかりつけ医と連携し、段階的に、方針を話し合い共有している。	事業所の、重度化・終末期における指針を、文書化し、入居時に本人・家族の合意を得ることが望ましい。また、将来的には、24時間対応の医療連携に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの提示、消防署の行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実地している。まだ実践力は付いていないので定期的に訓練、研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防の協力の下で訓練を行っている。そのうち1回は地域との協力のもと行っている。	年に2回、消防署の指導を受けて、防災訓練を行っている。また、地域の災害訓練にも参加している。さらに、防災意識を高めるために、夜間を想定した自主訓練を計画している。	夜間を想定した自主訓練では、夜間の避難誘導や連絡網の伝達訓練も含め、その実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの折に職員の意識向上を図っている。利用者のプライバシーを損なわない対応を心がけている。職員の対応をみて指摘するようにもしている。新人には、実習日誌を記入してもらいコメントで介護職としての姿勢を示している。	個々の生活歴や性格に配慮した言葉かけに努めている。誇りを損なわないように、指示したり無視したりしないように、高齢者を敬う姿勢で、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択できるような対応を心がけている又、職員の研修を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが作ってありそれに沿って対応しているが、自分のペースで過ごされる方もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は利用者を選んでもらうようにしているが本人が選べる方は少ない。2か月に一度理美容を利用できるように連携をとっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じテーブルを囲んで食事をしている。出来る方には配膳や食後の後かたづけを一部手伝ってもらっている。	利用者の嗜好を把握しながら、糖尿病の人にも配慮した味付けにしている。職員も一緒に食べながら、楽しい話題で雰囲気作りをしている。誕生会などのホーム行事には、利用者の希望の多い、赤飯・刺身・エビフライ・おはぎなどを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事摂取量を把握している。利用者個々の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの手伝いをしている。入れ歯の方は自分で洗われた後、職員がみて清潔保持している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し一人ひとりの排泄習慣、リズムをつかみ、おむつ使用を減らし排泄の自立にむけた支援をしている。	排泄表に基づき、こまめにトイレ誘導し、出来るだけトイレで排泄できるようにしている。夜間から早朝にかけては、リハビリパンツやパットを使う人もあるが、おむつの使用を減らすように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と毎朝の体操で、便秘対策に取り組んでいる。下剤使用の方は常用するのではなく個々に応じた使用量、頻度で使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常に希望に合わせて入浴はできていないが、できるだけ希望に沿うように本人の意思を確認して入浴していただいている	週に3回、昼の時間帯に入浴している。汚れの程度により順番を定め、互いに受け入れている。拒否の人は、タイミングと言葉かけを工夫し、浴室に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体の状態に合わせて、休息していただいています。本人が個々の体調に合わせて休息されている方もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は記録と一緒に職員がすぐ確認できる状態にあり看護師とも連携し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	数人は趣味(編み物、手芸等)自ら好みの物を購入し楽しんで暮らされている。お茶の時間は好みの飲み物を聞き用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞きドライブ、外食、公園等出かける機会を多くつくっている。家族にも協力してもらいでかける時間を持つように支援している	ホーム前の道路沿いに公園があり、天候や体調等に合わせ、日常的に、散歩に出掛けている。また、幼稚園に続く、舗装された広大な敷地に出て、外気浴も楽しんでいる。買い物・外食・ドライブ等は、家族と協力して支援している。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名の方がお金を所持し使いたい時に使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は自分で書ける方には書いていただきました。手紙も書きたい方には支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間兼食堂は1フロアーからなり居間にはソファも置いてある。畳コーナーもあり廊下は比較的広く開放感がある。フロアーは掃き出しのサッシで陽もよく当たり気持ちがよい。壁には、利用者との共同で作成した作品が貼ってあり季節感のあるフロアーとなっている	居間兼食堂には、節分の鬼のちぎり絵を大きく飾り、次節のひな飾りも始まっている。利用者の生年月日と笑顔の顔写真も掲示し、掃きだし窓からの眺めも良く、隣接の幼稚園からは、幼児の声が伝わるなど、季節感・生活感のある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがおいてあり仲の良い利用者が一緒に座りくつろいでみえる。廊下の突き当たりに椅子が置いてありそこから幼稚園が見えるので座って眺めてみえる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が置いてあり自宅にいるような感覚になれるように配慮している。	居室には、馴染みの小物類や、仏壇・家族の写真・テレビなどが持ち込まれている。それぞれが、趣味の手芸品づくりや観葉植物を育てながら、自分のペースで、居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から本人の現状把握に努めている出来ること、出来ないこと、わかること、わからないことを把握して状況に合わせて環境整備している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり(2階)		
所在地	岐阜県多治見市市之倉町13丁目83番地353		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に掲げてあり常に職員が確認できるようにしてあります。総合福祉ひまわりの理念を基にグループホームの理念作成を始めているところです。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事には積極的に参加し、地域の人との交流を大切にしています。清掃活動、防災訓練等、又、毎月、第三日曜日には、日曜喫茶を開催、利用者様、御家族様、地域の方達と楽しく食事をして自由に行き来できる環境を築きつつあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は、公民館において地域交流の一環として県病院のドクターを講師に「認知症の理解」と題し講演会を開催しました。運営推進会議においても、地域の認知症の方の対応を質問されることも増えてきており、これからの地域貢献に向けて検討中です		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご家族、地域の方が積極的に意見を出して下さるので参考にサービス向上に活かしています。そこからの提案で現在、日曜喫茶を開催地域の方との交流が出来て認知症理解の発信ができています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題解決が困難の時、その他、常に市の担当者と連携を取っており、介護保険に沿った対応が出来ているかどうか等、利用者様の具体的な対応も迷った時は、随時相談し協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は権利擁護推進員養成研修を受講している。職員はマニュアルにて研修、施設内にて外部講師による新人を含む職員研修にて取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は権利擁護推進員養成研修を受講。職員はマニュアルにて研修、施設内にて外部講師による新人を含む職員研修にて取り組んでいる。全員で注意深く観察、表皮剥離等見つけた時は、徹底的に原因を追及する。事故報告書を作成し皆で対応を共有している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、リーダーは研修に参加し必要性のある利用者に対しては活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解していただいている。又改定の際は書類でも表して送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	皆様の声、苦情箱を玄関に設置し、利用者様、御家族様のご意見は運営推進会議の検討事項で表して皆様に公表しています。ご家族が面会に来られた際は管理者は、必ずお会いして最近の様子を話す中でご家族の意見を聞くようにしている。そして職員が共有して運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見は充分聞く様に努力していますその内容によっては施設会議で討議して施設全体に反映できるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めている。ジョブ評価を導入し進めている。まだ給料には反映してはいないがそういう体制作りを進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成訪問指導制度を導入し、職員を4種類に分けたコースで全員が岐阜経済大学、あじさい学園のOJTとOFF-JTを年間通して実施している。管理者は外部研修(岐阜県福祉総合相談センター・福祉系大学他)での研修を積極的に受講している。資格試験受験を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他施設の見学訪問を実施しており交流を深め施設の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、本人、家族より困っていること、不安なこと、要望を細かく聞く様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の懇談で家族の思いを聞き、以後面会時、電話等で常に連絡し合い良い関係をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の懇談で支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支えあえる関係を築くには職員のしっかりした介護の考え方が重要なので研修を充実している。現場では数人の職員が暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に、ご家族に連携を取り、ご家族の立場を理解し意見、思いを聞きながらいい関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから出向くことは少ないが、馴染みの方、友人等が訪ねて来られる利用者様がある。これからは馴染みの場所や人との関係が途切れない様に支援して行きたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節の行事、レクリエーション、外出の機会を通して利用者同士が関わり合えるように支援し、お互いがわかり合えるように可能な限り情報も共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方は少ない為これからです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望、意向が聞けない方はご家族、又、職員の毎日の関わりの中から思いを把握して本人本位のケアが出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、本人から聞けない時、家族との会話や行動の中から生活歴等についての情報をみつけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から本人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き反映させるようにしている職員会議で意見交換して介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の記録や気づきを介護記録や申し送りノートに記載して、情報共有を徹底し見直しや意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院、買物等必要に応じ支援している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供や音楽療法、マジック、ダンス等、ボランティアの協力で楽しい時間を提供し、グループホーム以外の人との関わりで、豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院への受診をしている基本的に家族対応の受診となっているが、都合の悪い時は職員が付き添い受診している。体調変化時は看護師が付き添い施設での様子を伝え、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と常に連携し対応している。急変時24時間体制で対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は様子を見に行き状態を把握し、家族にも連携し退院後に安心して暮らせるように病院との情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、については、入居時に説明してありますが、終末期のケアについてはご家族の思いに添える24時間対応の医療連携を整えたいと準備中です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの提示、消防署の行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実地している。まだ実践力は付いていないので定期的に訓練、研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防の協力の下で訓練を行っている。そのうち1回は地域との協力のもと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの折に職員の意識向上を図っている。利用者のプライバシーを損なわない対応を心がけている。職員の対応をみて指摘するようにもしている。新人には、実習日誌を記入してもらいコメントで介護職としての姿勢を示している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択できるような対応を心がけている又、職員の研修を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが作ってありそれに沿って対応しているが、自分のペースで過ごされる方もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は利用者を選んでもらうようにしているが本人が選べる方は少ない。2か月に一度理美容を利用できるように連携をとっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じテーブルを囲んで食事をしている。出来る方には配膳や食後の後かたづけを一部手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事摂取量を把握している。利用者個々の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの手伝いをしている。入れ歯の方は自分で洗われた後、職員がみて清潔保持している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し一人ひとりの排泄習慣、リズムをつかみ、おむつ使用を減らし排泄の自立にむけた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と毎朝の体操で、便秘対策に取り組んでいる。下剤使用の方は常用するのではなく個々に応じた使用量、頻度で使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常に希望に合わせて入浴はできていないが、できるだけ希望に沿うように本人の意思を確認して入浴していただいている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体の状態に合わせ、休息していただいています。本人が個々の体調に合わせて休息されている方もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は記録と一緒に職員がすぐ確認できる状態にあり看護師とも連携し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は一人ひとりの生活歴、できることを把握し楽しんで暮らせるように支援している。おやつは、なるべく手作りを心がけている。お茶の時間は好みの飲み物を聞き用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞きドライブ、外食、公園等出かける機会を多くつづけている。家族にも協力してもらいでかける時間を持つように支援している		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使えることのできる利用者様がないので現在は支援していないが出来そうな方に使える支援を考えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は自分で書ける方には書いていただきました。手紙も書きたい方には支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間兼食堂は1フロアーからなり居間にはソファーも置いてある。畳コーナーもあり廊下は比較的広く開放感がある。フロアーは掃き出しのサッシで陽もよく当たり気持がよい。壁には、利用者との共同で作成した作品が貼ってあり季節感のあるフロアーとなっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファーがおいてあり仲の良い利用者が一緒に座りくつろいでみえる。廊下の突き当たりに椅子が置いてありそこから幼稚園が見えるので座って眺めてみえる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が置いてあり自宅にいるような感覚になれるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から本人の現状把握に努めている出来ること、出来ないこと、わかること、わからないことを把握して状況に合わせて環境整備している。		